

金文通释选译



[金文通释选译_下载链接1](#)

著者:[日] 白川静 通释

出版者:武汉大学出版社

出版时间:2000-3

装帧:平装

isbn:9787307028159

《金文通释》是学术界公认的金文研究方面的重要著作，对铜器铭文研究有着积极的作

用。本书译者选择书中十四篇铭文的释文译成中文，并附以铭文和器形影本。

作者介绍:

白川 静（しらかわ しずか、男性、1910年4月9日 - 2006年10月30日）は、漢文学者。学位は文学博士(京都大学)。立命館大学名誉教授、名誉館友。文字文化研究所所長、理事長。福井県福井市生まれ。

来歴

1923年、順化尋常小学校を卒業後、広瀬徳蔵（のちの民政党代議士）の事務所に住み込みつつ、成器商業夜間部（現大阪学芸高等学校）に通う。このころ、広瀬の蔵書を読み漁って漢籍に親しんでいく。1935年京阪商業卒業。

立命館大学専門部国漢科（夜間）を1936年に卒業し、立命館中学校教諭に。その後、立命館大学法文学部漢文学科に入学。同大学予科教授となる。1954年からは立命館大学文学部教授を務めた。1976年に66歳で定年退職。1981年には名誉教授の称号を受けている。

1962年、博士論文「興の研究」で、文学博士号を取得（京都大学）。

漢字研究の第一人者として知られ、漢字学三部作『字統』（1984年）、『字訓』（1987年）、『字通』（1996年）は白川のライフワークの成果である。甲骨文字や金文といった草創期の漢字の成り立ちに於いて宗教的、呪術的なものが背景にあったと主張したが、実証が難しいこれらの要素をそのまま学説とすることは歴史学の主流からは批判された。しかし、白川によって先鞭がつけられた殷周代社会の呪術的要素の究明は、平勢隆郎ら古代中国史における呪術性を重視する研究者たちに引き継がれ、発展を遂げた。万葉集などの日本古代歌謡の呪術的背景に関しても優れた論考を行っている。

最近では、平凡社から「白川静著作集」（全12巻、完結）、「白川静著作集別巻」（全22巻、2004年現在刊行中）を刊行する傍ら、中学・高校生以上の広い読者を対象とした漢字字典「常用字解」や、インタビュー・対談などを収録した「桂東雑記」（I・II）を刊行し、活躍した。現代最後の碩学と称せられていた。

1999年3月から2004年1月まで「文字講話」を開催。年4回ペースで全20回。講演内容は平凡社「白川静文字講話」（全4巻）にまとめている。

食文化についての研究もしており、「料理の鉄人」にも出演した。

2006年10月30日、内臓疾患（多臓器不全）により死去。享年96。

[編集]

逸話

以下の記述は、多く白川の娘津崎史が書いた『父・白川静96歳最期の日々』（雑誌文芸春秋2007年4月号）による。

著書の重厚な印象から怖い人だという印象を受けがちであるが、生前の白川に接した人によれば、茶目も飛ばすような軽妙な一面もあったという。若い人とも気軽に話をし、インタビューにも応じている。若手では宮城谷昌光を「勉強熱心だ」「あなたの文は清新でよろしい」と高く評価した。漫画家と対談するときには相手の作品をあら

はじめ読んでおくなど、気配りの人でもあった。

荒川静香・イチローが好きで、イナバウアーの真似をしたこともあったと娘が述懐している。病床でもニンテンドーDSで囲碁・将棋を楽しみ、「なかなか定石を知っとる」と悦んでいたという。

趣味は囲碁・登山。囲碁は相当な腕前で、若き日に関西棋院でプロから指導を受けるなどしていた。アマ六段に二子であったと自叙伝「回思九十年」で述べているので、四段の腕前であったと推測される。呉清源の新聞碁なども相当収集していた。病弱だった体を登山で鍛えていたため非常に健脚であった。

[編集]

主な著作

[編集]

著作

『詩経—中国の古代歌謡』（中央公論社 1970年）

『漢字—生い立ちとその背景』（岩波書店 ISBN 978-4004120957 1970年9月）

『金文の世界—殷周社会史』（平凡社 ISBN 978-4582801842 1971年1月）

『孔子伝』（中央公論新社 ISBN 978-4120003028 1972年1月）

『甲骨文の世界—古代殷王朝の構造』（平凡社 ISBN 978-4582802047 1972年2月）

『甲骨金文学論集』（朋友書店 1974年）

『中国の神話』（中央公論新社 ISBN 978-4120005824 1975年1月）

『漢字百話』（中央公論新社 ISBN 978-4121005007 1978年1月）

『初期万葉論』（中央公論新社 ISBN 978-4120008665 1979年1月）

『中国古代の文化』（講談社 ISBN 978-4061584419 1979年10月）

『中国古代の民俗』（講談社 ISBN 978-4061584846 1980年5月）

『字統』（平凡社 ISBN 978-4582128017 1984年8月）

『文字逍遥』（平凡社 ISBN 978-4582376036 1987年4月）

『字訓』（平凡社 ISBN 978-4582128024 1987年5月）

『文字遊心』（平凡社 ISBN 978-4582376043 1990年4月）

『詩経国風』（平凡社 ISBN 978-4582805185 1990年5月）

『字統 普及版』（平凡社 ISBN 978-4582-128116 1994年3月）

『字訓 普及版』（平凡社 ISBN 978-4582-128123 1995年2月）

『後期万葉論』（中央公論社 ISBN 978-4120024061 1995年3月）

『字通』（平凡社 ISBN 978-4582128048 1996年10月）

『回思九十年』（平凡社 ISBN 978-4582824346 2000年5月）

『字書を作る』（平凡社 ISBN 978-4582829877 2002年1月）

『常用字解』（平凡社 ISBN 978-4582128055 2003年12月）

『新訂 字統』（平凡社 ISBN 978-4582128062 2004年12月）

『新訂 字訓』（平凡社 ISBN 978-4582128079 2005年10月）

『人名字解』（平凡社 ISBN 978-4582128086 2006年1月）

[編集]

著作集

『説文新義』（白鶴美術館）

巻1～巻2（1969年）

巻3～巻6（1970年）

巻7～巻10（1971年）

巻11～巻13（1972年）

巻14～巻15（1973年）

巻16（1974年）。

『中国の古代文学』（中央公論社）

〈1〉神話から楚辞へ（1976年）

〈2〉史記から陶淵明へ（1976年）

『漢字の世界—中国文化の原点』（平凡社）

1（ISBN 978-4582802818 1976年2月）

2（ISBN 978-4582802863 1976年3月）

『白川静著作集』（平凡社）

第1巻（漢字1 ISBN 978-4582403411 1999年12月）

第2巻（漢字2 ISBN 978-4582403428 2000年1月）

第3巻（漢字3 ISBN 978-4582403435 2000年2月）

第4巻（甲骨文と殷史 ISBN 978-4582403442 2000年5月）

第5巻（金文と経典 ISBN 978-4582403459 2000年6月）

第6巻（神話と思想 ISBN 978-4582403466 1999年11月）

第7巻（文化と民族 ISBN 978-4582403473 2000年3月）

第8巻（古代の文学 ISBN 978-4582403480 2000年4月）

第9巻（詩経(1) ISBN 978-4582403497 2000年8月）

第10巻（詩経(2) ISBN 978-4582403503 2000年10月）

第11巻（万葉集 ISBN 978-4582403510 2000年7月）

第12巻（雑纂 ISBN 978-4582403527 2000年11月）

別巻（説文新義(1) ISBN 978-4582403619 2002年1月）

別巻（説文新義(2) ISBN 978-4582403626 2002年2月）。

別巻（説文新義(3) ISBN 978-4582403633 2002年5月）。

別巻（説文新義(4) ISBN 978-4582403640 2002年7月）。

別巻（説文新義(5) ISBN 978-4582403657 2002年9月）。

別巻（説文新義(6) ISBN 978-4582403664 2002年11月）。

別巻（説文新義(7) ISBN 978-4582403671 2003年1月）。

別巻（説文新義(8) ISBN 978-4582403688 2003年3月）。

別巻（金文通釈1(上) ISBN 978-4582403695 2004年1月）。

別巻（金文通釈1(下) ISBN 978-4582403701 2004年3月）。

別巻（金文通釈2 ISBN 978-4582403718 2004年5月）。

別巻（金文通釈3(上) ISBN 978-4582403725 2004年7月）。

別巻（金文通釈3(下) ISBN 978-4582403732 2004年9月）。

別巻（金文通釈4 ISBN 978-4582403749 2004年11月）。

別巻（金文通釈5 ISBN 978-4582403756 2005年4月）。

別巻（金文通釈6 ISBN 978-4582403763 2005年7月）。

別巻（金文通釈7 ISBN 978-4582403770 2005年11月）。

別巻（殷文札記 ISBN 978-4582403787 2006年7月）。

『白川静文字講話』（平凡社）

I（ISBN 978-4582403237 2002年9月）

II（ISBN 978-4582403244 2003年2月）

III（ISBN 978-4582403251 2003年12月）

IV（ISBN 978-4582403268 2005年4月）

続（ISBN 978-4582403299 2007年2月）

『桂東雑記』（平凡社）

I（ISBN 978-4582831610 2003年6月）

II（ISBN 978-4582832198 2004年4月）

III（ISBN 978-4582832631 2005年5月）

IV（ISBN 978-4582833263 2006年4月）

[編集]

共著

『電脳文化と漢字のゆくえ一岐路に立つ日本語』（平凡社 ISBN 978-4582403220 1998年1月）

吉目木晴彦、池澤夏樹、加藤弘一、島田雅彦、金井弘夫、長島弘明、丹羽基二、長谷川貞夫、田村毅、加藤重信、小林龍生、紀田順一郎、江藤淳との共著。「特別対談」で江藤淳と対談。

『知の愉しみ 知の力』（致知出版社 ISBN 978-4884746100 2001年12月）

渡部昇一との対話集。

『呪の思想一神と人との間』（平凡社 ISBN 978-4582831214 2002年9月）

梅原猛との対話集。

『神さまがくれた漢字たち』（理論社 ISBN 978-4652078020 2004年12月）

山本史也との共著。

『白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい』（共同通信社 ISBN 978-4764105782 2006年12月）

小山鉄郎著。白川静監修。

[編集]

翻訳

『詩経国風』（平凡社）

ISBN 978-4582805183 1990年5月

『詩経雅頌』（平凡社）

1（ISBN 978-4582806359 1998年6月）、2（ISBN 978-4582806366 1998年7月）。

[編集]

編集

『金文集〈第4〉列国』（二玄社 1966年）

[編集]

その他

『白川静博士古希記念中国文史論叢』（立命館大学人文会 1981年7月）

『白川静の世界一漢字のものがたり』（平凡社 ISBN 978-4582943757 2001年11月）

『白川静 漢字暦2005』（平凡社 ISBN 978-4582645132 2004年10月）

『白川静 漢字暦2006』（平凡社 ISBN 978-4582645163 2005年10月）

『白川静 漢字暦2007』（平凡社 ISBN 978-4582645200 2006年10月）

『字通 CD-ROM版』（平凡社 ISBN 978-4582636017 2003年8月）

[編集]

受賞歴

毎日出版文化賞特別賞（1984年）

菊池寛賞（1991年）

朝日賞（1996年）

京都府文化特別功労賞（1996年）

文化功労者（1998年）

勲二等瑞宝章（1999年）

第8回井上靖文化賞（2001年）

文化勲章（2004年）

[編集]

恩師

橋本循

[編集]

外部リンク

白川静の世界（立命館大学文学部文学科中国文学専攻ページ内）

立命館大学 白川静記念 東洋文字文化研究所

松岡正剛『千夜千冊』 【0987夜】 白川静『漢字の世界』 1・2

NHK知るを楽しむ『白川静 漢字に遊んだ巨人』 松岡正剛（NHK知るを楽しむ私のこだわり人物伝 2008年2月期）

目录:

[金文通释选译_下载链接1](#)

标签

金文

白川静 金文

金文青铜器

金文考证大系

考古

文字学

古文字

音韵学

评论

[金文通释选译_下载链接1](#)

书评

[金文通释选译_下载链接1](#)